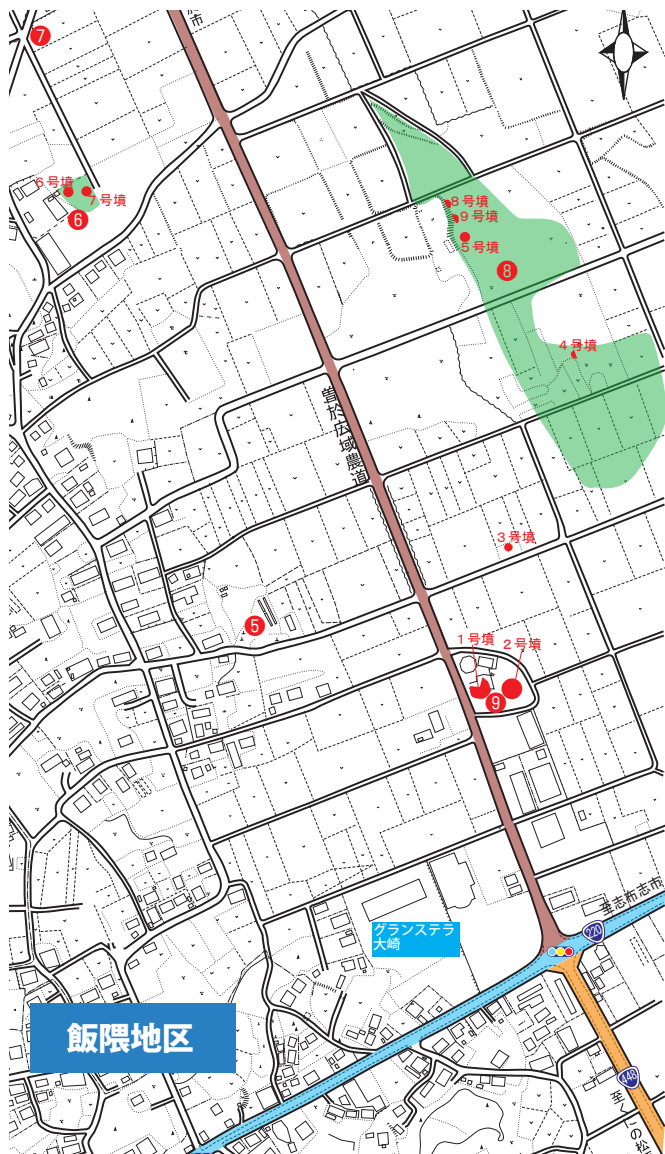


### 5 飯福寺別当本坊の墓所

延文4年（1359年）に島津氏に敗れた蓬原城主 救仁郷頼世の弟 朝元が出家して36代目の別当職となった。以後別当職は代々救仁郷氏に受け継がれることとなる。

ここには江戸時代の歴代別当職ほか一族の墓が多く存在する。この中に救仁郷朝次の墓がある。第19代島津光久の小姓として使っており、薩摩藩の用水路の開発や干拓事業に携わっていた。三文字の湿地帯に大量の木を浮かせて基礎を造り、地頭仮屋から永吉台地に渡る最短の道を完成させた人物である。



### 6 飯隈古墳6号・7号墳

山頂に2基の円墳が存在

### 8 鷲塚山

妖怪が村人を悩ます事が多く、鎌倉時代に飯福寺の中興である覚進が天竺の霊鷲山の三世一体蔵権現を勧請し、悪魔納受の秘宝を修め、妖怪を封印したといわれている。

山頂には3基の古墳（5号・8号・9号）が確認されている。また町教育委員会が平成22年～23年に行った発掘調査で地下式横穴墓が山腹に多く点在していることが明らかになった。



5号墳の近くで発見された地下式横穴墓

### 7 義覚上人の塔

飯隈山を開山した義覚の墓と伝えている。義覚は天平20年（748年）に亡くなった。五輪塔は後世に建てられたものと推測される。

地元では『いぼ』に良く効く神様として『いぼぼとけ』と呼んでいる。

昭和51年に町指定となる。



鷲塚山



### 9 飯隈古墳1号墳・2号墳

広域農道沿いに1号・2号が立地しており、道路側の1号は住宅敷地で一部損壊している。

